

奈良・奈良女子大学構内遺跡

- 1 所在地 奈良市北魚屋西町
- 2 調査期間 一九八四年(昭五九)七月～八月
- 3 発掘機関 奈良女子大学埋蔵文化財発掘調査会・奈良国立文化財研究所
- 4 調査担当者 坪之内徹・岡田英男
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 八世紀～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

奈良女子大学構内遺跡は、平城京左京二条六坊と七坊にまたがる。



(奈良)

奈良時代以降も宿院御所や奈良奉行所をその中に含み、現代に至るまで続いている都市遺跡である。校舎建設に伴う発掘調査は過去三次にわたって行われているが、当年度の調査は構内西南部の左京二条六坊十二坪にあたる地点で行われた。下層

からは奈良時代後半から平安時代初頭にかけての掘立柱建物群が検出されたが、上層では一二世紀末に埋められたと考えられる上縁径三・三m、深さ三m以上の大きな井戸を中心に、柵や規模の大きな掘立柱建物が配されていたことが明らかになった。木簡はこの大きな井戸から土器や多数の木製品とともに出土したものである。

8 木簡の釈文・内容

(1) 〔^(穿孔)二二三四五六七^(穿孔)〕 請使万鉢法師

〔^(穿孔)二二三四五六七^(穿孔)〕

(穿孔)

〔^(穿孔)二二三四五六七^(穿孔)〕

323×30×2

(2)

〔^(穿孔)二二三四五六七^(穿孔)〕 東大寺恵経得業

(穿孔)

〔^(穿孔)二二三四五六七^(穿孔)〕

323×31×2

桶大 一 小二

〔^(穿孔)二二三四五六七^(穿孔)〕 油酢

9 関係文献

奈良女子大学『奈良女子大学構内遺跡発掘調査概報Ⅲ』(一九八五年)